

公益社団法人千葉青年会議所

2018年度基本方針

2018年度理事長予定者

清澤秀顕

基本理念

明るく元気に楽しもうとすること

スローガン

愉 快 活 発

～楽しく生き生き過ごそう～

基本方針

1. 未来に繋がる青少年の育成
2. 志ある組織の活性化
3. 自慢のまちづくり
4. シナジー効果を生み出す交流
5. 経験が生み出す創造力強化
6. 独立したリーダーの育成
7. 60周年準備と存在意義

所 信

◆はじめに

我がまち千葉は、2015年に東京圏に加わる形で国家戦略特別区域となり、地方創生に向けた取り組みにより経済復興、雇用促進に向け、幕張新都心を中心に企業誘致を図りつつあります。2016年秋には、JR千葉駅に新駅舎が開業し、2018年には駅ビルが全面開業される予定となっております。千葉市の総合戦略として代表されるように、2019年に向け、従業員数、幕張新都心年間来街者数、JR千葉駅乗車員数の増員を目標としております。新しい魅力となるスポットが次々開かれ、千葉市の今後が期待されていることは間違いありません。さらに、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが、幕張新都心にて競技会場となります。しかし、我が国における少子高齢化の波は、千葉市も例外ではなく、総人口は2020年にピークを迎え、100万人に一步及ばず、減少傾向となると予想されております。経済面に関しては、デフレにも関わらず、有効求人倍率はバブル期より高く1.4%あり、仕事を選ばなければ、就職出来る状況となっております。これはひとえに、労働人口分布における、高い割合を占めていた層が高齢となり、リタイアしつつある他なりません。千葉のまちを良くするためには、今のタイミングを逃すと、取り返しのつかないことになりかねません。利他の精神を持つ我々、千葉青年会議所が能動的に、「奉仕」「修練」「友情」といったJC三信条を元に、まちのために、2018年も更なる運動をしようじゃありませんか。

◆未来に繋がる青少年育成

未来は先祖代々から受け継いでいるものではなく、未来の子孫から借りているとも考えられます。今後、我々の子孫へと繋がる青少年を育成することは、まちにとって、かけがえのない財産となることは、間違いありません。また、世界には、生まれた瞬間から今日の食事にも困るような貧困層が突出している国が多く存在します。それと異なり、我々日本人は、物質的に恵まれている豊かな国であると認識しております。しかし、世界における日本の幸福度を調査すると、上位ではなく、むしろ下位です。日頃より当たり前と感じている日常が、ありがたい状況であると認識すべきです。そのためには、非日常の体験をすることにより、自分がどれだけ幸せなのかを感じ取り、現状が当たり前ではなく、感謝すべきと思える気持ちを芽生えさせるべきなのです。そして、この幸運を誰かに返さなければという意識を持つべきなのです。さらに、2020年から大学入試が暗記重視でなくなると言われております。今後、本質的な豊かさを感じ取れる人間力を養える青少年を育成する事業を展開します。

◆志ある組織の活性化

AIの発達によって、10年から20年後には、約49パーセントの労働人口は代替わりすることが可能と言われております。今後は、自分が外国語を話せなくても、その場で翻訳出来るモノが開発されるでしょう。その時、必要なのは語学力でしょうか、それとも人間力でしょうか。自分たちのまちをどうしたいかを真剣に考え、行動出来るのは人間でしかありません。そして、私利私欲ではなく、自分のまちを良くしたいという高い志を持った者が行動することで、その姿に魅せられ、同志が集まるものだと考えます。また、自分の力だけでは叶わなかったことも、組織であれば可能となることがあります。エンジンをぶら下げて集まるような組織ではなく、想いを持った行動を貫くことで集まる同志を拡大することで、魅力ある組織とします。大きな同じ志を持つ者を一人でも多く集い、楽しく笑いあえる仲間を増やすことで、組織の活性化を図ります。

◆自慢のまちづくり

多くの日本人は外国人と話しても、自分の国の良さを伝えられないと、よく耳にします。しかし、それは自国の良さに限らず、自分のまちにおいても同じことが言えるのではないのでしょうか。自分のまちについて、良さを伝えられない人が多く存在すると感じます。それは、まちに魅力がないからではなく、無関心だからと考えます。お金を稼ぐことは、生活のためや、私利私欲のために言われなくても動けますが、まちを良くするためには、自分のまちに興味を持つことが大事です。経済的な得がなくても、人は何かを得られ、魅了される場所に集まります。楽しく笑いのある場所を創造し、まちで過ごす人々が、自分のまちとして興味を持ち、自慢したくなるような機会の提供こそ、青年会議所運動と言えるのではないのでしょうか。具体的な行動を起こし、時には何かを犠牲にし、己を修練する必要がありますが、既成概念に捉われず、まちを代表するようまちづくりを展開します。

◆シナジー効果を生み出す交流

まちを良くするためには、現役メンバーだけではありません。OB特別会員を始め、他の諸団体、行政など、様々な形で活動されております。地域のみならず、イノベーションをもたらすには、3つの者が必要となると言われております。それは、「若者」「バカ者」「ヨソ者」です。我々は20歳から40歳という若者であります。夢・想い・ビジョンを語り合い、実践する上で、志を持ちながらも、時にはバカになって活動することもあると思います。しかし、ヨソ者が加わらなければ、新たな考えを生むには乏しくなるかもしれません。また、「ヨソ者」と関わることで、シナジー効果が生まれ、よりよい千葉のまちを醸成されます。更に、まちのためだけでなく、我々自身の成長を目的として、全国に広がる青年会議所の仲間と連携を図ることで、その効果は、無限大になると信じております。

◆経験が生み出す創造力強化

青年会議所は、千葉のまちのみに存在する訳ではありません。世界、国、地域、そしてまちを明るく豊かにすることを目的に存在し、運動を続けております。そのため、国際青年会議所、公益社団法人日本青年会議所、同関東地区協議会、千葉ブロック協議会があります。スポーツにおいても、完璧を求めるならば、ロボットが行えば良いかもしれません。しかし、ロボットがスポーツを行っているのを見たがる人はいないでしょう。泥臭くても、人が努力している姿にこそ魅了され、刺激を受けます。「人は人によってのみ磨かれる」と、よく耳にします。利他の精神を持ち、己のためだけでなく、誰かのために能動的に活動する志を持った同志とメンバーが触れ合うことで、より魅力ある千葉青年会議所を創造します。

◆独立したリーダーの育成

リーダーとは、何も政治家や起業家になる者ばかりではありません。どんな立場でも、どんな場面においても自己発信をする人のことだと考えます。人生において、必ず目の前にいくつもの困難が現れますが、それをどのように捉え、どう決断するかが大事になります。問題に直面した時に、ある者は「これは大変だ」と諦めてしまいが、またある者は「これをどのようにして乗り越えよう」と考えます。解決した問題の数が人をより成長させます。さらに、人はそれぞれ異なる考えを持っています。考えが異なれば、意見も異なりますが、自分と異なる意見にも耳を傾けることが、重要となります。異なる意見が、知識となります。知識がなければ知恵も生まれません。自分と異なる意見を取り入れる機会を増やし、知恵が生まれる機会を創造することで、リーダーを育

成します。どんな場面においても、自己発信し続ける姿を魅せ続けるリーダーが、人の心を動かし、能動的な行動を起こす人を増やします。

◆60周年準備と存在意義

1960年に創立された千葉青年会議所は、2019年度には創立60周年という節目の年を迎えます。「明るい豊かな社会」の実現を目指し、20歳から40歳までの青年経済人で構成されております。「明るい豊かなまち」を目指すということは、「何かが暗く、何かが貧しいまち」とも捉えます。まずは、60周年という節目を迎える前に、どうすることで「明るい豊かな社会」の実現となるのか、今一度、原点回帰すべきと考えます。そして、まちと共に参加するメンバーの更なる発展と、地域社会に必要とされる団体であり続けられるのか、私たちは何をすべきかを徹底的に検証し、異なる意見をぶつけ合い、討論することで、今後も進化し続けます。また、その先に70周年、80周年、90周年、100周年と、より良いまちを目指すことで、千葉青年会議所の存在意義を今まで以上に高めると同時に、メンバーの成長へと繋がります。また、40歳で卒業となりますが、それが終わりではなく、始まりでもあるのです。青年会議所運動によって得られた「修練」「奉仕」「友情」が、その後の人生における貴重な財産となります。まちと共に歴史を刻むことで、自分たち自身の魅力を高めます。

◆結びに

人は物質的なモノが大きいほど動かないが、心理的なモノは大きいほど動くと言われております。楽しく笑いが多く起きる場所には、まちで過ごす多くの人々の心を動かすだけでなく、より魅力あるまちづくりへの発展が出来ると考えます。活動を展開する我々自身が、「超」がつくほど楽しく笑い合えるようにするためには、意識が必要となります。『幸福論』を唱えたフランスの哲学者であるアランの言葉より、「悲観主義は気分属し、楽観主義は意志に属する」とは、まさにそれを示したものでしょう。何故、青年会議所運動をするのか、という問いに対する答えは難しいかもしれません。しかし、自分の母親から生まれた意味を考える人はいないでしょう。どのように青年会議所に入会したかではなく、どう使命感を持って活動するかが大事なのではないのでしょうか。人は誰もが、いつまでも健康のままでいられるか分かりません。だからこそ、限られた時間の中で、自分のまちを青年会議所という道具を使い、より良いものに変えようじゃありませんか。青年会議所活動における根幹でもある、明るく豊かな社会の実現のために、まずは自分たち自身が元気に楽しむという志を持った活動に向け、「愉快活発～楽しく生き生き過ごそう～」というスローガンを掲げ、一年間メンバーと共に活動して参ります。